

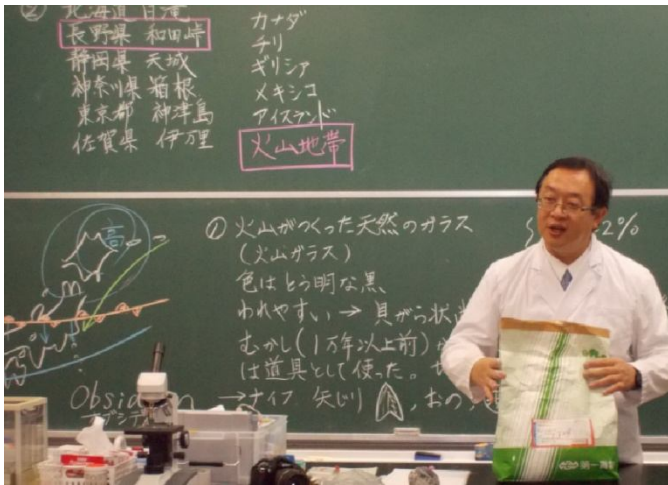
「黒曜石の探究 (7)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

芙蓉パーライトさんが宅配便で送ってくださった、貴重な黒曜石碎片。私はそれを熱してパーライトにする実験を見せる前に、大学の講義のように事前レクチャーをしておいた。黒曜石の成因、古代から現代までの利用法、産地、それに黒曜石を送って下さった「芙蓉パーライト」とはどんな企業なのか、などである。



今回は同僚の先生に授業の様子を撮影してもらった。自分が授業をしている姿というのは、あまり目にする機会がない。感想は、「板書が下手だなあ」「ああ、ずいぶん歳をとったなあ」というものだった。



これは今から 32 年前、私が初任の年に授業をしている姿だ。若い！それに痩せている！髪の毛も多い！しかし、授業の技術と云ったら、この時とあまり進歩していない。要するに「32 年目の初心者」である。



最初は「本当に黒曜石でもものが切れるのか？」という実験だ。比較的厚い紙を、黒曜石の縁で切ってみた。この作業は、上手にしないと自分の手まで切ることになる。子どもにはさせないほうが良い。



「はい、見事に切れましたよ」と自慢げに見せているところ。カッター・ナイフで切ったのとほとんど変わらない鮮やかな断面に、子どもたちは驚いていた。ちなみに、授業をしているのは、金正日氏でも習近平氏でもなく、私(田中)である。



和田峠産の黒曜石も入手できたので、これは自由に触らせてあげた。周縁部は鋭利なので、怪我には十分注意するように繰り返し指導した。